



心 友

№ 1 1

令和6年9月30日(月)発行
四万十市立中村西中学校
文責(校長)小野川 憲

運動会が終わり2週間が経ちました。運動会での頑張りが日々の生活の中に生かされているでしょうか。頑張ったあと、少し気が抜けてしまった人もいるかもしれません。大きな行事の後は、気持ちの変化や友達関係・人間関係の変化もあり、落ち着かないことも多く心配される時でもあります。大きな行事に取り組み、成功させたことを自信として、次の目標を自分自身でしっかり決めて頑張りましょう。これからの季節は、勉強やスポーツ、文化的活動に集中して取り組める季節です。時間を大切に使い、成長していきましょう。明日からは10月に入ります。頑張ろう！



人権研修「デートDV」について3年生が学習しました。

9月20日に3年生が、四万十市人権擁護委員の方を講師に迎え、「デートDV」について研修を行いました。「デートDV」とは、交際相手に対する、からだ、言葉、態度による「暴力」のことです。暴力とは、顔や体を叩く、殴るというだけではなく、「プス」「バカ」などと暴言を吐く、無視する、メールを勝手に見る、他の友人との交遊を禁止するなどの過度な束縛なども含まれることも学習しました。研修では、ロールプレイを取り入れ、それぞれの立場に立って考えることもできました。暴力の背景は「人権」を尊重しないことにあると言われます。この研修から、基本的人権や対等な男女の関係等について考えることができたと思います。これからの社会が、本当の意味で自由で平等な社会になるよう身近なところから取り組んでいきましょう。



前向きに取り組む3年生を「素晴らしい生徒さんたちですね。」と褒めていただきました。

《生徒の感想》

- ・パートナーと仲良くしてDVにならない、DVに近づくことがないようにしたいです。男女関係なく相手のことを考えてより良い関係を築いていけるように心がけたいと思います。
- ・DVという言葉だけを知っていて、何も知らなかったことを改めて感じたので、これからは正しい知識を身に付けておきたいと思いました。対等な関係であるということ意識して人との付き合い方も気を付けていきたいです。
- ・「言葉の暴力」と聞いて少しノリの「バカ」とかも相手を傷つけてしまうことがわかりました。どんな人にも思いやりを込めて相手のことをしっかり考えて生活したいです。パートナーとうまくやっていくためにも、しっかり話し合いを大切にしたり、そのパートナーを大切にして、ちゃんとした関係を築いていきたいです。

- 今までにデートDVという言葉聞いたこともされたこともないので、今日の話にあった、女性の5人に1人ぐらいが被害を受けたことに驚きました。DVが起こる理由には、昔からあるような女性らしく、男性らしくなどの固定観念にとらわれているようなところにあることが分かりました。デートDVをしない、されないようにYouメッセージではなく、Iメッセージを使っていきたいと思いました。
- DVなどは、支配したいと思ったり、偏見などから始まるので、話し合ったりすることがやっぱり大切だなと思いました。まだまだ相談できていない人がたくさんいると思うので、相談しやすい環境ができていったらいいなと思いました。自分は絶対にDVをする立場にはならないようにしたいです。

1年生が投網漁の体験学習を行いました。

9月20日に1年生が、四万十川で投網漁の体験学習を行いました。この学習は、「地元の子供たちに、川に親しみ川で行っている漁を知ってもらうこと」を目的に、毎年、四万十川中央漁業協同組合が行ってくれています。事前学習として7月には、組合長の大木 正行さんに、四万十川や四万十川の鮎について詳しく説明していただいています。今年は、体長18cmほどの鮎を400匹くらい用意していただき投網漁を体験しました。網を綺麗に開いて投げることは難しそうでしたが、地元川漁師さんや漁協の方に丁寧に指導していただき、上手に投げる生徒も見られました。中には、1度に30匹くらいとった生徒もいて、「網の中で力強く動く鮎の重さがグングン伝わってきて楽しい。」と話していました。生きた鮎に初めて触れる生徒もいましたが、みんな楽しそうに体験していました。獲った鮎は塩焼きにして食べましたが、本当に美味しそうによく食べていました。

漁協の方も、「この近くにある四万十川の魅力が、子どもたちに伝わっていたら嬉しいです。」と話していました。しかし、「今年は鮎の量が激減して、猟期を2週間短縮するようにお願いしています。今年は海水温の上昇や夏の雨の少なさが原因で、鮎の遡上が低調になったのでは。」と今の厳しい状況も話されていました。生徒の皆さんには、身近にある四万十川の魅力を感じるだけでなく、四万十川についても深く学習してほしいと思いました。そして、この体験を準備していただいた地元の方々への感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。

